

令和7年度第2回川口市文化芸術審議会 会議録

日 時 令和8年3月27日（金）10時～12時

場 所 川口市役所第二本庁舎6階 2601C会議室

出席者 (委員) 原田会長 齋藤副会長 青木委員 伊藤委員 宇田川委員 川田委員  
小林委員 田和委員 寺久保委員 野村委員 山下委員  
(事務局) 松本市民生活部長 岩谷文化推進室長 尾崎主査  
茂木主任 日下主任 北片主任

議事録

1 開 会

2 会長挨拶

3 報告

・報告 (1) 川口市文化芸術基本計画における令和6年度事業評価結果について

【説明】 (事務局より説明)

【質疑・意見】

(委 員) 計画としてPDCAサイクルとあり例えば評価がC・Dといった事業は今後どうしていくのか。

(事務局) 各事業において文化芸術の側面以外目的の部分もあり、この評価が低かったからといって事業の廃止等を検討するものではない。

(委 員) 用語の説明をして欲しい、「DX」とは例えばどういったことか。

(事務局) 一例として、ある事業ではこれまで郵送や窓口で参加を受付けていたが、それを止め、応募フォームから参加を申請できるようにした。チラシの印刷費用の削減にも繋がった。

(委 員) 今年に入りいくつもの選挙があり、選挙のビラ等で美術館の運営費が高いというような記載もあった。そのような費用対効果とコスト面の評価はどうするのか。

(事務局) 3ページの評価調書においてコストに対する成果という項目がある。ただし、あくまで主観での評価になり客観的に費用対効果を評価するものではない。

【承認】 (全員承認)

・報告 (2) 令和7年度川口市立アートギャラリーの事業活動について

【説明】 (事務局より説明)

【質疑・意見】

(委 員) 前年度より来館者数が増えているが理由はどう考えているか。

(事務局) 前年度に比べて展覧会、ワークショップ、貸しギャラリーいずれも伸びているが、特に展覧会の数字が伸びている。前年は夏の展覧会の来館者数が伸び悩んでいたが今年度は木材を使用した、春のこまむぐ展など春の展覧会に多くの方が来館された。

(委 員) コロナ禍前の2019年の来館者数は。

(事務局) コロナ前までは年間5万人程であった。そこからコロナ禍で2万、3万と減ったが今年度は2月末時点で5万6千人なので大きく回復した。

(会長) 川口の人口比からするとすごい数字だと思う。

(委員) 貸しギャラリーは人気があると思うが応募状況や貸しギャラリー毎の来館者数はわかるか。

(事務局) 貸しギャラリーの来館者数について、こちらの資料には記載していないが、毎月の指定管理者の報告書には記載されており、後ほどお示しする。応募については、全て埋まることがほとんどである。(※1)

(委員) 先ほど来館者数が増えた理由として春の展覧会の来館者数が増えたということであったが、季節によって来館者数は大きく変わるのか。

(事務局) 例年夏の暑さが酷く、外出される方が少ないと感じる。アトリアに来る方は、通りかかったついでに訪れる人も多く、酷暑による外出が減ったことが来館者の少ない原因ではと考えている。

(委員) 美術館が出来たことでアトリアの来館者数に影響があるのでは。

(事務局) 美術館とアトリアで重複する部分もあるので役割を差別化していきたい。

(委員) 令和7年度スケジュールで7・8月は当初では「図画工作等の制作環境の提供」となっていたが企画が変わった理由はあるのか。

(事務局) 企画が変わったわけではなく「オープンアトリエ」が当該事業である。

(委員) 夏の人が出歩かない時期に展覧会を行い失敗するとダメージが大きい。ひとつの案だが暑い時期は「美術と涼む夏」といったように館内に椅子を並べ涼みに来てもらう。その際に、お金を掛けずに展示を行い、アトリアに涼みに来てついでに鑑賞もできるといったようなことでもいいのでは。

(事務局) 来年度も暑い時期は展覧会ではなく、家では出来ないようなワークショップ等参加型の事業で来館してもらうことを考えている。

【承認】 (全員承認)

#### 4 議事

##### ・議事 (1) 令和8年度川口市立アートギャラリーの事業予定について

【説明】 (事務局より説明)

【質疑・意見】

(委員) アトリアでは貸し館も含め多様な展示がされている。今後、アートだけではなく音楽の演奏が出来たりと総合的な美術施設になってもいいのではないか。

(委員) 臨床美術とはどういったものか

(事務局) いわゆるアートセラピーで医療現場での美術によるサポートである。例として怪我した方のリハビリとして絵を描いたり等がある。

(委員) 例えば、お年寄りが認知症になった際に周りからの声もあり、だんだん自分に自信がなくなってしまう。そのような時にアート制作を行い、アートと認められることで自信を与えるサポートになる。

- (委員) 海外だとお医者さんが薬を処方するように美術館に行くことを薦めることもある。
- (委員) スケジュールの空欄部分はまだ貸し館が決まってないということだと思うが、貸し館を利用する際は審査等が行われるのか。
- (事務局) 審査はなく利用規約が守られていれば貸出しを行う。
- (委員) 先日、学校の先生に誘われ、対話型鑑賞というのを見学した。作品について感じたことを話あったり、作品を思いもよらぬ角度から見たりと子ども達の自由な発想を引き出していた。
- (事務局) アトリア主催の展覧会でも、全てではないがギャラリートークという関連イベントを行っている。学芸スタッフが一緒に案内しながら作品について自由に会話しながら鑑賞できる。
- (委員) 中学校の部活動が数年後にはなくなっていく見通しで、スポーツについてはクラブチーム等がありケアできるのではないかと思う。美術については受け皿が消えていってしまう。放課後、アトリアに行って学芸員から鑑賞の手助けをしてくれる機会等があってもいいのではないか。
- (事務局) 部活動の地域移行というところで美術部の活動場所が減り、担当課から活動の受け皿としての相談も受けていて、まさにオープンアトリエはその一環となっている。日中だけでなく放課後に子どもたちが立ち寄り、美術鑑賞について学んだり、何かを制作したり、ゆくゆくは制作物の発表の場となれるよう検討している。
- (委員) 過去にアーティスト・イン・スクールという事業をやっていたと思うが、そのような若手アーティストと学校を結びつけるようなことも考えて欲しい。
- (事務局) アーティスト・イン・スクールは過去アトリアが行っていた事業でアーティストが学校に赴き、総合や図工の時間に授業を行い、そこで制作した作品をアトリアで発表するというもので指定管理制度に移行する前の段階に一度中断したような状況であったが、再び近隣の小学校と連携し、作品の制作等を行っている指定管理者から報告を受けている。また、オープンアトリエにおいても今はアトリアのスタッフで対応しているが、今後はアーティストに来てもらい、子ども達に指導してもらおうことも検討している。
- (委員) 美術系の学校に進学してもそのまま美術系の仕事に就ける人は少ない。また美術館等で働こうとすると学芸員資格が必要なことが殆どであるが、学芸資格を取るのは大変なため持っていない人もいる。そのような人が働けるよう間口が広がるといいと思う。
- (委員) コマの文化展とあるが、ベーゴマは都内でも人気があり、注目している企業もある、是非ともやって欲しい。
- (会長) 各委員から様々な提言がなされたので、新年度から事務局の方でそれらを踏まえながら政策を進めていって欲しい。

【承認】 (全員承認)

## 5 閉会

(※1) 別紙参照